

平成30年度 第2回 山梨県文学館協議会 会議結果記録

日 時： 平成31年2月28日（木） 午前10時30分～12時

場 所： 県立文学館研修室

参加者：

○委員 津久井豊徳、青木れい子、石川芳子、杉原克彦、水石和仁、
長谷川千秋、古川裕佳、廣瀬孝嘉、出澤忠利、澤谷滋子、
赤井美知江、高橋恵美子

○県教育委員会 学術文化財課：柳沢総括課長補佐、海老根主任

○文学館 三枝館長、桐林副館長、古屋次長、高室学芸幹、保坂学芸課長、
飯沼資料情報課長、望月総務課リーダー、中野学芸担当リーダー、
石田教育普及担当リーダー、小林資料情報課リーダー

○指定管理者 岩野SPSやまなし支配人、高橋SPSやまなし副支配人

議事

- 1 平成30年度事業報告について
- 2 平成31年度事業計画について
- 3 その他

司会 桐林副館長

会長挨拶

館長挨拶

○議長

事務局から大変あの手際のよい説明をいただきました。只今の事務局からの説明について、ご質問、またはご意見等がありましたらお願いをしたいと思います。いかがでしょうか。

○A委員

去年も企画展など、見せて頂いて楽しませていただきました。実は11月20日、県民の日に、今年度初めてだと思うんですが、美術館の方でミレーと一緒に写真を撮れる、ミレーの絵を写真に撮れるっていう企画が初めてあったと思います。それで午後に来たんなんですが、とても駐車場に入るのに並んでいまして、前の事務所の駐車場も一杯だし、竜王側の方の第二駐車場も一杯で、しばらく並んでいたんですが諦めて帰ってしまったんです。たぶんそういう方か何人もいたんじゃないかと思うので、駐車場はそのメインの駐車場と、前の事務所と、第3駐車場の3点だけなのかということと、それからミレーの絵を写真で撮れるっていうのが、今年の県民の日にもあるのかということをお聞きしたいです。

それから、企画展、特設展の方は、今年も楽しみだなという展示が予定されているんですが、夏休みのこの「山と水の文学」の内容を見ると、子供たちや家族で夏休みに来たいと思う、子供たち向けのワークショップなど、子供向けの何かが企画されてるのかということをお聞きします。

○議長

三点、ご質問がありました。駐車場の件、それからミレーの写真を今年も撮れるかということ。それから、夏休みの子供向けの何か、企画があるのかという。

○事務局

はい、まず、駐車場を増やすかということですが、時期によっては一杯になってしまったり、またはすきずきしていたりということで、私たちが指定管理者と話し合いをしながら、例えば職員の駐車場は外の駐車場を借りるとか、そういうような努力をしていますけれども、やはり平準化ということはちょっと難しいところがあります。総務課や指定管理者は、美術館と文学館両方を勤務しておりますので、大きな事業が重ならないようにするなど努力をしながら、なるべく、駐車が出来るようにしていますが、やはり大きな行事を催すと、たくさんの県民の方が利用していただいているということで、ちょっとご不便をかけてるところがあるなという認識があるということでご理解いただきたいと思います。

美術館の写真撮影ですけれども、確かに委員さんおっしゃったとおり、今回初めてミレー館内の写真撮影を可能にしました。3000人強のミレー館の観覧利用があったということで、非常に大きな効果があったと思います。ただ、いろいろな意見がありまして、もう少しゆっくり観たかったという意見も当然ありました。ただ、その3000人来たということは、本当に貴重な経験ができたということでもあります。美術館の方で、今後どうするかということは検討しているところです。今ここでは答えは出せませんが、一定の効果があり、SNSと言いますか、色んなネットワークを通じて山梨県立美術館の情報を拡散していただいたということはあるので、すけれども、お客さんとの反応とか、館内の管理の状況とかということを考えて、また今後検討をしていくこととなります。

○事務局

「山と水の文学展」に関わるワークショップについてお答えいたします。まだ、詳細決まっていますけれども、染め物の先生をお迎えしまして、庭の植物などを活かした染め物を親子で楽しんでいただくということを考えているところです。それから、展示をたくさん観ていただくために、例年取り組んでいるチャレンジクイズを作りまして、展示にまつわるクイズを我々手作りして、全部回答したお子様には景品を出すなど、なるべくたくさん来て頂こうと来年度も考えております。

○議長

よろしいですか、はい。なかなか駐車場の件は難しいことだと思いますが、たくさん来れば駐車場混んでしまうし、また、少なければ駐車場ガラガラだし、非常に難しいと思いますが、ご理解いただきながらやるしかないなというふうに思っています。その他何かございますか。

○B委員

質問と要望ですけれども、平成30年と31年の企画など、拝見させていただいて、本当にこれだけのことをよくやっていたら感心しました。今年は開館30周年ということで、また大きな企画展をしなければいけないというのもなんですが、それが仕事だと思っています。30周年記念展示についてです。30周年記念展示の中で今、ここに特設展や企画展など、3つの案が出ておりますけれども、この中で30周年ってということになりますと、それにふさわしい内容と企画がずいぶん出ていて、もうやらなければいけないことだと思うんですけれども、特設展と企画展で企画されています、太宰治展と宮沢賢治展ですね、これを30周年でやるという、何か大きな目的、企画、今まで発表されていなかったこととか、何かそういったものがあるのでしょうかということが質問です。あと要望といたしまして、30周年にふさわしい企画の内容、それを要望したいと思います。あと、30周年としてこの二つを持ってきた理由、県立文学館としてこれをやるという理由がありましたら教えて頂けたらと思います。

○議長

30周年の記念として、太宰治と宮沢賢治を持ってきた、何か深い理由がございますか。

○事務局

30周年をどういうふうに展開していくか、館内で色々な意見が出た中で、やはり節目の年として、多くの方にその文学の魅力そして広がりを知って頂けるようなもの、どういうテーマがふさわしいだろうか、また、館で収蔵している資料をどれだけ多くの方に知って頂ける機会が作れるだろうかということも含めて色々検討したところでございます。

そんな中で企画展として挙がりました宮沢賢治は、数年前になりなすけれども、保阪嘉内という、葦崎出身で賢治と非常に深い親交があり、そして賢治からの手紙73通が遺されていて、文学館で寄託をいただいたものがございます。それを、そういった山梨との関わりということも活かしながら、さらに賢治は短い生涯でありましたけれども、非常に大きな広がりがあり、今現在も色々な面で影響を与えている。その文学だけではなくて、音楽とか映像とか、そういったところにも影響を与えている非常に大きなテーマになり得るところから、30周年にふさわしいテーマとして展開を広げられるのではないかと考えております。

また太宰につきましては、館で収蔵している資料の中で、数度企画展を開催しておりますけれども、近年新たに入った資料もありまして、そうしたことを全て展開して、より広く山梨における太宰というものをPRできる機会をここで作りたいというところが、またこの30周年に位置づけたところでございます。

○議長

よろしいでしょうか。太宰治にしても宮沢賢治にしても、魅力あふれる作家ですので、どこまで展示が出来るかという、展示し切れないんじゃないかと思うほどだと思いますからよろしくお願ひしたいと思ひます。石川啄木も人気がありますが、宮沢賢治もそれ以上にその根強いファンがいるといわれていますので、私自身の場合、太宰にしても宮沢賢治にしても、楽しみにしています。30周年の節目にふさわしい、展示を期待したいと思ひます。よろしくお願ひします。

○B委員

宮沢賢治にしても、あちこちの地域で開催していると思ひますが、この山梨というところの視点から見た、まあ、保阪嘉内も出てくるわけですけど、そういった視点を是非PRして頂きたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○議長

はい、よろしくお願ひしたいと思ひます。その他何かございますか。

○C委員

お聞きたいことがございます。4月の27日から5月の6日の10連休ですが、これだけの長い休みというのはなかなか今まで私の知る限りではなかったし、特に時代が変わりまして、人が相当動くのではないかと感じておりますけれども、文学館では、何かこういうことをやって集客を増やしたいとか、そういう計画がありましたら是非教えて頂ければと思ひます。今まで一日500人以上入った企画展が1回と、400人以上が1回、300人以上が3回、200人以上が3回という30回のうち、これだけの部分しか過去になかったということでございます。人が動くんだったら、これは仕掛けをすべきじゃないかと思ひますので、もしそういう企画がありましたら教えて頂きたい。それが1点です。

希望としましては、私は文学あまり得意じゃないんですが、ただ、作家は、どんなものを食べたかというのが大好きでございます、そういう作家の人たちが地方とか色んなところへ行って食べたところを歩き廻ってます。そういうことで、作家と身近になれるんじゃないか、もう一つの切口があるんじゃないかと思ひますので、展示の中にそういうようなことをやられると、もっと身近になるんじゃないかと思っております。もう一つ、私の母が生前に、よく紅葉の季節にここへ来たんですね。大変綺麗で喜んでいました。そのタイミングをどこかで発信していただければ、地元の方は当然ですが、県外の方にも来て頂けるのではないと思ひますので、是非その辺の何か情報発信をして頂きたいと思ひます。

○議長

はい、3点ほどご質問やご要望やらですが、10連休があるけれども人が動く機会だから何か

上手い仕掛けがあるのかということが1点。それから、作家が色んなところで色んなものを召しあがっているので、そういうところにも視点を当てるのも面白いのではないかと、紅葉の季節が非常に美しいがいつ訪れたらいいのか、ちょうど今の時期がいいですよということを発信して欲しいというものでしたが、何かございますか。

○事務局

食についてのご質問がありましたけれども、今年の6月29・30日に食育推進全国大会というのが山梨県で行われることになっております。それに関連した事業としまして、閲覧室の資料紹介で、「文学者の食卓」という展示を予定しております。6月14日の金曜日から、7月15日の月曜日まで、資料の18ページの方に記載しておりますけれども、この期間に文学者の食に関わる資料なんかもご紹介する予定になっております。文学者の中には、お料理が非常に得意な方もいたり、一週間こんなものを食べたというような随筆などを残している方もいますので、そういったものをご紹介する予定でおります。

○事務局

10連休の文学館の催しについてなんですが、ちょうどこの時期に隣りの美術館の方で、「デザインあ展」という、非常に来館者が多く予想される展覧会を実施することになっておりまして、先ほど少しお話がありました駐車場の問題を抱えております。駐車場に限りがあるので、文学館あるいは指定管理者のゴールデンウィークならではのイベントは、今回はちょっと実施をしないという方向で決めさせていただいております。

紅葉の時期の情報発信につきましては、指定管理者が、文学館ではなく美術館になるのですが、美術館のフェイスブックを使いまして、銀杏が黄色くなり始めましたとか、紅葉がきれいですというような発信をさせていただいておりますけれども、文学館からの発信ということは残念ながら今は出来ておりませんでしたので、例えばホームページ等を使ってということになると思うんですけども、この秋に向って検討したいと思っております。

○議長

はい、有り難うございました。その他何かございますか。ま、ちょうど節目の年になりますので、文学館の在り方から含めて、何かご提案等ございましたらいかがでしょうか。

○D委員

今日もスライド等で説明をいただきまして、あらためて中身の濃いこれだけの事業ことをやっているんだな、本当に頑張ってるなという感じました。先ほどお話にもありましたが、今年の宮中歌会始に県内から二人が選出されて、県民がすごく喜んだことだと思うんです。県立文学館の短歌教室を始めとしまして、出前授業で外へ出て教育普及をコツコツやっている部分が力となっているのではないかと感じます。結局この文学館が日々行っている地

道な活動が一番基本になるのかな、文学館に人々が来たりとか、魅力を発信する一番基礎っていうのはすごい行為だとあらためて感じました。

それから、質問ですが、30周年事業がございまして、色々ここで書かれていないような具体的なこともあると思うのですが、昨年美術館の40周年で、美術館と私というエッセイを募集しました。美術館入ったところに、応募した方たちのエッセイを展示していました。それがすごくいいですね。来た方もあれを目にして読んだら、美術館とのつながりこんなにあるんだ、こういう人がいるんだとすごく分るんですね。で、文学館の方でも、なんかそんなふうなエッセイの募集をするとか、或いは昔、写真展みたいなことを何かやられたことがあると思うんです。蛇笏の俳句に合わせて写真を撮ってそれを展示や抽選をしてそれを絵はがきにするというふうなことがあって、今もショップで売っていると思うんですが、そんなふうな企画あるいは俳句でも短歌の大会を催すとかの計画があったらお聞かせいただきたいと思います。

○議長

はい、1点は文学館の日常の活動について、本当に大変良かったと非常に感謝をしているということだと思います。企画展だとか特別展だとか普通の展示だとかあるわけですが、そこだけを見ていると文学館の方々の苦勞が見えない。それを準備するのにどれだけ労力を使っているかということを考えると、これだけのスタッフで本当によくやれたなと思います。そんなことで頭が下がります。もう一つ、写真のことを覚えてないかとお話をされていたと思いますが、あのお答えになるようなことございますか。

○事務局

今、お話があった美術館さんで行ったエッセイの募集は、私どもも拝見して、色々県民の皆様とこういう形で県立の文化施設と関わってこられた、また、それぞれの人生の節目に据えて頂いているんだなど、とても参考になりました。お話いただきましたように、私どもの方から色々場を作って情報を発信して、おいで下さいということだけではなくて、実際にその県民の皆様が参加する場というか、その言葉を発する場を設ける、機会を作っていくということも大事だなと思っております。今日の資料では、そのそこまでの細かいところまでは達していませんけれども、今おっしゃられたような、皆さんに参加していただき寄せて頂くというような、そういうところを何か実現したいと考えておりまして、また計画が整いましたら、発表して説明していきたいと思っております。

○議長

はい、有り難うございます。少し苦勞かけることになると思いますがよろしくお願ひしたいと思います。何かその他ございますか。どうでしょうか、文学館は30周年、美術館も40周年ということで、マスコミの方々はどうなふうにお考えでしょうかね。

○E委員

はい、30周年ということで、本当に先ほどの話にもありましたように、少ないスタッフで非常に努力されて、充実した企画展を開催していらっしゃるなどというところはあるのですが、あの、囲碁の本因坊戦ですね、大きなタイトル戦で第二局が開催されるということですが、ホテルとか高級旅館みたいところで開かれるのがほとんどなんですけれども、文学館の素心菴でやることは、先ほど説明のあったワイン茶会やこういう試みを素心菴で行うことになったということは、何ていうんでしょうか、非常に敷居が高い施設みたいなイメージがありますけれども、こうやって使われるってことは、いいことだなあと思いました。よく対局の時に別室で解説をしたりする、例が多いと思うんですけれども、それで囲碁ファンが来て、その解説を別室現在の様子みたいなものを解説すると言うふうな試みというような事は今回あるのでしょうか。

○事務局

本因坊戦の主催者と館で色々話をし、今後どうしていくかというところを詰めておりました、やはり県民の皆さんに文学館を利用させていただきたいというのがそもそもの趣旨ですので、なるべく皆さんが参加できるような会場づくりをして行きたいと思っております。ですからご意見としては非常に有難いお言葉で、私たちの後押しになると思っております。有り難うございます。

○F委員

多種多様な企画・イベント、それから広報、非常に敬意を表したいと思います。30周年のところで、今、杉原さんがお話しした囲碁の部分、非常に目玉になると思います。恐らくホテル、旅館以外で、開くのはここが初めてになるのかなと思います。

○館長

珍しいですね。

○F委員

ですよ。囲碁は、最近すみれちゃんとか若い世代が活躍してるので、非常に注目されると思いますし、相当ファンも来るでしょうし、警備の面でもピリピリしたところも出てくるかなと思いますので、しっかりやって頂きたいと思います。それからキャッチコピーですけれども、これはどういうふうに、例えば公募するのか、専門家をお願いするのか、或いは内部で決めて行くのかということが非常にキーになるもので大事だと思います。あの正直、なんていうんですかね、諸刃の剣のようなところがありまして、いい方に出ればすごくいいんですけど、失敗すると誰の心にも残らないみたいのところになってしまいますので、そこら辺の策定の方法についてお聞きしたいと思います。

○議長

はい、特にキャッチコピーの策定の方法について、何かお考えがあれば、よろしく願います。

○事務局

有り難うございます。確かに、これからの文学館に親しんでいただくための大事な言葉になりますので、まだどういう形で、どういうふうに表示して行くかというところもこれからになりますけれども、ご意見を参考にしてよく議論して決めて行きたいと思います。

○F委員

有り難うございました。

○議長

いかがでしょうか。まだ言い足りないとか、その他何かございますか。質問意見等も出尽くしたようですので、会を一応閉じまして、その他に移りたいと思います。事務局から何かございましたらどうぞ。

○事務局

事務局からは特にございません。